

事業の背景・目的

大型ゲンゴロウ類の一種フチトリゲンゴロウ、ならびにクワガタムシ科の一群であるマルバネクワガタ類は、日本ではともに南西諸島に分布する。フチトリゲンゴロウとマルバネクワガタ類の1種2亜種（計3タクサ）は、生息地及び個体数の減少が著しく、国内希少野生動植物種に指定されている。

このため、上記の希少種を生息域外保全の目的で、伊丹市昆虫館において飼育下繁殖技術の確立を試みるとともに科学的知見を集積する。さらに、野生復帰を実施する際には即応できるように準備を整える。



事業の概要

* 生息域外保全事業

目的：フチトリゲンゴロウ及びマルバネクワガタ類について、飼育（生息域外保全）個体群を維持することにより種（系統）の保存を行った。



成果

順調に累代飼育継続中、種の保存に貢献

フチトリゲンゴロウは55個体の新成虫を羽化させることができた。また、他施設から2ペアを引取り、遺伝的多様性に配慮した累代飼育を実施中。



マルバネクワガタ類は餌の不良で幼虫の死亡数が多かったものの、国内希少種を含む5タクサの累代飼育を継続中である。



* ファウンダー確保・野生復帰事業

目的：生息地における生息状況調査
飼育下繁殖を行うためのファウンダーの確保



成果

国産マルバネクワガタ大型種が分布する、奄美群島、沖縄諸島、八重山列島の計9島にて生息状況調査を行った。

ウケジママルバネクワガタのファウンダーを、3年振りに確保できた。ヨナグニマルバネクワガタは依然個体数が増加していない印象である。オキナワマルバネクワガタ久米島個体群は発見できなかった。

フチトリゲンゴロウは今年度野生復帰を実施しなかったため当館も不参加。ウケジママルバネクワガタは飼育下で羽化した個体数が非常に少数だったため、野生復帰未実施。